

みなさんお元気ですか。

2017年5月の道場での様子をお便りします。ご覧くださいませ。



5月10日、Mauricio Reyesさんの昇級審査（3級）を実施した。彼は、今回2回目の挑戦となる。1回目は、少し技が雑だったので、正確に覚えてきなさい、と言っておいた。彼も私の言ったことに納得してか、今回は正確に技をこなした。彼は、今年大学生になった。勉強が忙しいのか、最近なかなか稽古に来ない。しかし、審査の前の数日間は、「受け」（Winston）とも技を確認しながら、稽古していた。もう一人大学生で、今まで熱心に稽古していた人がいたが、1級を取ってから道場に来なくなった。こちらの大学は、2部制で午前と午後に分かれているらしい。その彼は、午前中に学校にいて、午後からは母親の仕事場を手伝っているとのことだった。こちらの学生も勉強と宿題に忙しいらしい。



5月10日、Jose Abrahamさんの昇級審査（3級）を実施した。彼は、看護師で最近、当道場のあるマナグア市からレオン市に転勤した。そのために道場に通うのが遠くなり、稽古の回数も減った。彼の審査では、なぜか自信がなさそうな感じで行っていたので、私は不合格とした。しかし、もう一人の審査員のAnibal先生が合格と言ったので、私も同意した。彼は、日本のアニメや書道にも興味を持っている。ある日、書道の稽古に私の家に来た。書道の後、世間話をしながら、彼の給料の話になった。彼はフルタイムで働き、麻酔も担当している看護師だが、月給は300ドルくらいらしい。1日、10ドルの稼ぎだ。生活が苦しいと言っていた。彼は、隣街のマサヤ市に母親と二人暮らしらしい。月謝10ドルは高くないと言っている人は、一体いくら稼いでいるのだろうか。



5月11日、Leslie Monterreyさんの昇級試験（1級）を実施した。私が就任して以来、彼は、3級、2級、1級と審査を受けてきている。基本技をまじめに習得している生徒の一人である。彼は誠実な人で、みんなからも信頼されている。稽古にも週2、3回定期的に来ている。英語ができるので、私の良き話相手でアシスタントでもあり、非常に助かっている。最近、前の会社を辞めて新しい会社に移ったと話してくれた。そして、その時の退職金で家を購入した。完成したらみんなを招待したいと言っていた。彼は、まだ20代の後半だけど。一体ニカラグアでは、いくら位で家を買えるだろうか、と興味を持って聞いていた。最近生徒数が減ってはいるが、こういう生徒が今後もどんどん育ってくれることを望む。



今回の昇進審査期間は、2週間と最初は決めてが、生徒の事情をくんで、3週間とした。この期間中に気づいたことは、普段仲良く稽古しているように見えるが、何か生徒の間に、壁があるように感じる。受審者は、通常、事前に誰かに「受け」を頼むことになっているが、ある受審者は、その当日になっても「受け」をなかなか見つけられない。私が彼の「受け」をしてくれる人、とみんなに呼び掛けてやっと決まる。「受け」を決められない人はほんの数人だけど、積極的に話しかけてコミュニケーションを取ろうとしない。この国では、「アミーゴ、アミーゴ」と言って気安くふるまってくる人が多いと感じるが、親友と呼べる人を何人持っているのだろうか。合気道の良い点は、いい友人ができることだと日ごろ言っているのだが、この国ではそうは行かないようだ。



5月15日、昇級審査が終わったので、今週から木剣を主に教えることにした。まずは木剣の7つの形から初めて、組太刀の10の形を教えていきたい。また、剣の動作と体術の動きとの関連性についても説明する予定だ。就任した当初は、杖は好むが剣は好まない人が多かったが、現在はみんな杖も剣も真剣に学ぼうとしている。この国は女性がまじめで、男性はいい加減だ。生徒も女性のほうが長続きしている。今は、1の太刀、2の太刀、3の太刀を教えている。そして、太刀の振りかぶりや振り下しが、呼吸法の手の動きであることを証明するために、体術の諸手取り呼吸投げなどを合わせて教示している。最近は見学にくる人もいるのだが、この稽古風景を見学者はどのように感じているのだろうか。稽古しているある生徒は、自分はサムライになったような気分だと言っていた。



5月18日、3月から朝の稽古を始めている。この稽古は週3回、火曜日、木曜日、そして土曜日だ。毎回、TomとOshimanが必ずくる。最近、特にOshimanの熱心さには感心する。私より早く道場に来て、必ずモップで床を掃除してくれる。以前は私がやっていたのだが、それを見ていたのか、彼は自らやってくれる。Tomは少し遅れてくるが、私が掃除をしていると私がやりますと言って、箒を取り上げる。この二人は本当にまじめに稽古する。今は主に杖の20形を教えているが、彼らは、形とその技名を覚えようとして、少し変な日本語だけと繰り返し名前を呼びながら杖を振っている。特に、Oshimanが杖を振り下すときの顔を見ていると、まんが「柔道部物語」にでてくる「岬商柔道部の三五十五」を思い出す。三五も力があるのと、口をとんがらすからだ。Oshimanも今波に乗っている感じがする。彼らの熱心さが私の教える意欲を駆り立ててくれる。



